

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 16 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370359

研究課題名(和文)パリ揺籃期活字本パラテキストにおける著者の表象

研究課題名(英文)Representation of the author in paratext of incunabula and post-incunabula in Paris

## 研究代表者

平手 友彦 (HIRATE, Tomohiko)

広島大学・総合科学研究科・教授

研究者番号：10314709

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：16世紀パリの5人の出版書籍商、アントワヌ・ヴェラール(294点)、ジャン・トレペレル(173点)、ミッシェル・ルノワール(253点)、ジェフロワ・デュマルネフ(154点)、アラン・ロトリアン(245点)を初期活字本のデータベースを作成した。中世末からルネサンスにかけての「著者」の意味の変化を考察した後、特にミッシェル・ルノワールの活字本を中心に、パラテキストにおける著者の表象を、他の4名の出版書籍商が出版した活字本と関連付けて考察し、出版書籍商と著者の役割の問題を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：We made the database of the initial printed book of five booksellers in Paris of the 16th century: Anthoine Verard (294 books), Jean Trepperel (173 books), Michel Le Noir (253 books), Geffroy de Marnef (154 books), Alain Lotrian (245 books). After having considered the change of the meaning of "the author" from the end of the Middle Ages to the Renaissance, we analyzed the representation of the author in the paratext mainly on the printed books of Michel Le Noir connected with those of the other four booksellers and clarified the problem of the role of the author representation at the publication of booksellers in this period.

研究分野：仏文学

キーワード：仏文学 パリ 出版書籍商 インキュナブラ 著者

## 1. 研究開始当初の背景

1500年までに活版印刷で出版された書物を「インキュナブラ」incunabula (揺籃本) という。しかし、後世の印刷本との実質的な区切りは1530年頃であることから、1501年以降1530年までの印刷本を「ポスト・インキュナブラ」として、活字本の「揺籃期」は1470年から1530年頃までと考えられている。このおよそ60年間で、当初写本に似せて作られた印刷本は現在の書物の形態に近づくが、この揺籃期では中世(特に11世紀以降)の写本にはなかったタイトルページなども登場し(タイトルページが生まれる以前は保護のための空白ページが最初に置かれた)、書物の物質的要素「パラテキスト」paratexteが変化してくる。例えば、パリの出版書籍商トレペレルの場合では、最初は「タイトル+プリンターズマーク」の形式であったタイトルページは、「タイトル+木版挿絵」という形を経て、「タイトル+木版挿絵+出版等の情報」へと至ったことが明らかになっている。当初印刷工房あるいは書籍商内部で保護や目印として現れたタイトルページは、タイトルに合わせた木版画で飾られ、出版情報なども加えられて「商品」の姿へと進化した。

このタイトルページに見られるような書物のパラテキストが変化していくその最中、1504年4月30日、大押韻派の詩人アンドレ・ラヴィーニュが出版書籍商ミッシェル・ルノワールをパリの高等法院に提訴し、ルノワールが著者に無断で出版しようしていた『榮譽の園』(この詞華集にはラヴィーニュの詩が含まれる)の販売を差し止めた。著作権がまだ確立されていない16世紀初頭において、この出来事はフランス語著作者が自らのテキストの所有権を公に得ようとしたことを示すと同時に、特定の依頼主から報酬を得ていた写本時代とは異なって、著者が公の販売行為に関わり始めたことを意味する。テキストが写本から活字本に移行する過渡期にお

いて、一方では活字本の表紙は販売の営みに合わせて充実していき、他方では著者によるテキストの所有権が主張された。より多くの読者が想定されるこの活字本揺籃期において、自覚的な著者であればパラテキストを通じて活字本に介入していったであろう。事実、16世紀初頭に活躍した詩人であると同時に劇作者でもあったP.グランゴールは允許状や自分を象徴する木版画で自著の活字本を飾った。

## 2. 研究の目的

このような問題関心から、本研究はインキュナブラからポスト・インキュナブラの移行期にパリで出版書籍業を営み、同時代の同じ著者や作品を出版する傾向にある5名の書籍商、即ちアントワーヌ・ヴェラール、ジャン・トレペレル、ミッシェル・ルノワール(ジャン・トレペレルの姻族)、ジェフロワ・デュマルネフ(ジャン・トレペレルの姻族)、アラン・ロトリアン(ジャン・トレペレルと一時期協同)が出版した活字本のデータベースを作成し、活字本のパラテキストを分析対象の中心に置いて、複数の出版書籍商との水平的な比較と同時に、同じ著者同じ作品での垂直的な分析を行って、(1)各出版書籍商のパラテキストの変化と相互関係、(2)「著者」の意味とパラテキストへの「著者」の表象の変化、(3)以上の2点を踏まえた上で書物の商品化への過程、を明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1)5人のパリ出版書籍商が出版した活字本の特定を行い、パラテキストのデータベースを作成する。本研究はインキュナブラの時代とポスト・インキュナブラの時代を対象とするが、そこでまず活字本の特定のためにこの二つの時代それぞれに特化された書誌文献で調査することが必要となる。15世紀のインキュナブラについては、British LibraryのIncunabula Short-Title Catalogue、

Gesamtkatalog der Wiegendrucke、パリ国立図書館の Gallica、そして 16 世紀初頭のポスト・インキュナブラについては B. Moreau, *Inventaire chronologique des éditions parisiennes du XVIe siècle (1501-1540)* や *French Vernacular Books* とそれを元にしたパリ国立図書館の BP16 (Bibliographie des éditions parisiennes du 16e siècle)、そしてこの両期を跨いで 16 世紀末までのフランス語文献を対象とするカタログで 2007 年に一応の完成形を見た USTC (Universal Short Title Catalogue) を利用し、更に近年刊行された写真版・カタログ文献の情報なども参考にしながら網羅的に活字本の特定を行う。また直接披見する必要のある活字本などについてはそれらが所蔵されているパリ国立図書館、アルスナル図書館、シャンティ城コンデ美術館などで調査し、文献複写、マイクロフィルム化、接写カメラによる撮影を行う。

(2) 特定した活字本を各出版書籍商ごとに作品名、作者、刊行年、所蔵先等でデータベースを作成して整理し、作成したデータベースに基づいて年代順に以下の項目について分析し、著者がどのようにパラテキストに現れたかを考察する。

タイトル：著者名、テキストとの照応

プリンターズマーク：プリンターズマークの有無と位置

木版図版：図版の有無と位置、著者との関係、テキストとの照応

出版情報：出版者と書籍商名、販売元、出版年等の記載とその位置

免許状 privilège：免許状の取得は誰か、免許の期間、記載位置

その他の情報：前付や奥付の情報など

(3) このデータベースからの分析と平行して、中世末からルネサンスにかけての「著者」の意味の変化と「著者」の表象について考察する。その上で、同じ作品、同じ著者で異なる

出版書籍商が印刷している版本を比較検討し、それらの特徴を明らかにして著者と出版書籍商との関係を分析し、パラテキストに書物の商品化がどのように反映されているかを明らかにする。

#### (4) 考察

研究の対象となる出版書籍商の活字本データベースは、アントワーヌ・ヴェラール 294 点、ジャン・トレペレル 173 点、ミッシェル・ルノワール 253 点、ジェフロワ・デュマルネフ 154 点、アラン・ロトリアン 245 点となった。中世末からルネサンスにかけての「著者」の意味の変化を考察した後、インキュナブラ時代の 1486 年からポスト・インキュナブラの 1520 年にかけて、少なくとも 250 点を上梓したと考えられるミッシェル・ルノワールの活字本を中心にして、パラテキストにおける著者の表象を、他の 4 名の出版書籍商が出版した同じ著者の活字本と関連付けて考察する。

#### 4. 研究成果

まず「著者」auteur の意味の変化であるが、その語源となるラテン語 auctor は古代（ギリシャ・ローマ）の著述家の「権威」の意味を含んでおり、インキュナブラの時代にはこの古代の作品が多く出版され、同時代の著者による作品は少なかった。16 世紀に入ると、古代作品の校訂者や注釈者、韻文化や翻案をする者、そして俗語で作品を書く者も徐々に「奥付」colophonなどで「著者」と示されるようになって著者と見なされていく。やがて、活版印刷によって書物量が増えて潜在的読者層が拡大して書物の商品化が著しくなると、著者のとらえ方も大きく変わり、もはや古代作品とは関係なく自らの著述を活字本とした者が著者として認められるようになった。

この著者の変化の中で、ミッシェル・ルノワールが印刷した 253 点の活字本を見ると、著者の表象では次のようなことが明らかに

なった。第一に、インキュナブラの時代にはやはりラテン語作品が多く、パラテキストもタイトルのみ、あるいはタイトルとミッシェル・ルノワールのプリンターズマークのみであることが多く、おそらく 1494 年頃に義父 J. トレベレルと協同で上梓したと思われる『遺言詩集』で初めて同時代の Fr. ヴィヨンの登場する。第二に、当時大人気だったこの『遺言詩集』において初めて「著者」がタイトルページの裏に木版画で登場したこと（タイトルページのパラテキストはタイトルと著者名、そして M. ルノワールのプリンターズマークのみであった）。そして、このヴィヨンの表象である木版画は J. トレベレルが 1497 年（7 月 8 日）に出版する際にも使用されており、当時ヴィヨンの表象の一つとして通用していたことが類推できる。第三に、1500 年以降からは俗語フランス語による活字本が圧倒的に多くなり、そらの多くはラテン語からの翻訳か同時代の著作であること。第四に、それらのタイトルページのパラテキストには、テキスト内容を示す木版画が現れることが同様に圧倒的であること。第五に、O. de La Marche のような同時代の著者の場合を他の出版書籍商と比較しても、同様にタイトルページのパラテキスト（木版画）はテキスト内容を示す傾向が見られ、P. Le Dru が 1505 年に出版した著者が「阿呆の母」の木版画で表象された P. Gringore の場合はむしろ例外的であったと考えることができる。

本研究の研究成果は「パリ出版書籍商ミッシェル・ルノワールによる「著者」とテキストの表象」として学術雑誌に発表する予定である。

また最後に、アラン・ロトリアンの活字本を分析していく過程で、1530 年頃に出版された『糸紡ぎの福音書』の「著者」とテキスト内容の関係を分析し、その成果を「『糸紡ぎの福音書』のテキストと語り -結び付けら

れた物語、あるいはヌーベルに向かって-」と題する論文を発表し、15 世紀後半の「物語り」における語りと「著者」そしてテキストとの関係も明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

1. 平手友彦、『糸紡ぎの福音書』のテキストと語り -結び付けられる物語、あるいはヌーベルに向かって-、欧米文化研究、21 号、査読有、2014、pp.65-86.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平手 友彦 (HIRATE TOMOHIKO)

広島大学・大学院総合科学研究科・教授

研究者番号：10314709